

経理 ● 税務

● 年度後半に向けての資金繰り対策の確認

8月は夏休みや旧盆などの影響もあり、一般に営業活動は低調な時期といわれます。その一方で、夏物商戦の仕入代金の決済時期に当たるなど、支出は例月並み以上になることが多いため、どうしても資金繰りがタイトになりがちです。

どこから、いつ、いくらの入金があるかをしっかり確認して、資金繰り計画を立てる必要があります。

なお、3月決算の企業では10月から年度後半に入ります。下期の売上・利益計画、資金計画の進捗状況や計画との乖離をチェックし、早めに対策を練りたいところです。

● 夏物商戦の売残り品の処理

8月も半ばを過ぎると、夏物商戦は終盤を迎えます。見込み違いなどにより売残り品が出た場合は、商品別に数量と金額をリストアップして評価損計上を判断し、計上する場合には証拠資料の整備などを行います。

通常と異なる特売セールなどでは、

どうしても販売が最優先され、経理処理がおろそかになりがちです。税務上の留意点を再確認のうえ、ミスのない処理を心がけましょう。

● 12月決算法人の中間申告と納税

8月は、12月決算法人の中間申告・納税月です（申告期限は8月31日）。

中間申告には、前年度の確定法人税額の2分の1を納税する「予定申告」と、期首から6か月間（上半期）の利益・損失に基づいて納税額を計算する「仮決算」の2つの方法があります。

どちらを選ぶかは企業に委ねられていますが、一般的には、上半期の実績が前年同期と同様であれば予定申告を、著しく悪化している場合は仮決算を選ぶようです。

事務負担なども考慮して自社に適した方法を選びましょう（ただし、納税額によっては、予定申告に限定される場合もあります）。

● 夏祭りへの寄附などの処理

8月は、各地で夏祭りや納涼イベントが催されます。ことしも新型コロナウイルスの影響のため、例年どおりというわけにはいかないでしょうが、規模を縮小したり、オンラインを利用して行なうケースもあります。地域密着型の企業では、参加する機会もあるでしょう。

会社が提供する社名入りのうちわやタオル、手拭いなどは、原則として広告宣伝費となりますが、現金の寄附や人員の派遣などで生じる費用は、税務上の問題が起こりやすいので注意が必要です。

たとえば、事業との関連性や支出の目的、供与のしかたなどによって、寄附金か交際費等かが区分されます。

● 税務調査への備え

確定申告の処理が一段落した7月は、税務署内で人事異動が行なわれます。それから業務の引継ぎ、調査法人の選定などを経て、本格的に税務調査に動き始めるため、毎年8月後半から11月にかけては、税務調査のピークを迎えます。

いつ調査の連絡が来ても問題ないよう、自社の処理を確認し、きちんと説明できるようにしておきましょう。

人事 ● 労務

● 来春新卒予定者の採用活動

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを取り戻しつつあるいま、昨年までのような企業、学生間での採用活動の混乱は、ある程度収まると考えられます。夏

休みを利用してインターンシップに参加したり、地元で就職活動を行なう学生が増えたりと、例年に近いかたちの採用活動も活発になるでしょう。

一方で昨年までのコロナ対応のなかで、学生がオンラインでの情報収集、情報交換、さらには会社説明会を重視するようになりました。都会の学生が地方の企業の、地方の学生が都会の企業の情報を得る機会が広がったともいえるでしょう。

企業にとってもオンラインを活用することで、いままで出会う機会のなかった学生との接点が生まれる可能性もあります。今後はWeb面接などが定着すると考えられますので、効率的な進め方等を検討するとい良いでしょう。

●夏場の健康管理

夏場は暑さと湿気で、疲労がたまりやすい時期です。疲労が原因で業務災害や通勤災害などが発生することを防ぐため、就業中は適度に休憩させるなど、社員の健康管理と安全対策を徹底しましょう。

国の節電要請や会社の節電対策で、冷房の温度を高めに設定している事業所が多いと思いますが、屋内にいても、脱水症状や熱中症になることがあります。寝不足や不規則な生活も体調不良を起こしやすくなりますので、自己

管理を徹底させ、テレワーク下では特に仕事中的お互いの健康状態を確認しあいましょう。

マスクはウイルス拡散予防には有効ですが、高温や多湿といった環境下での使用は熱中症のリスクが高くなる恐れがあります。熱中症には一層の注意が必要です。

厚生労働省のホームページでは、マスクの着用についての最新の情報をまとめています。

●パート・アルバイトのシフト管理

夏物商戦の期間中、パート・アルバイトを増員している企業では、個々のスケジュールを把握して、早めに勤務シフトの調整を行ないましょう。

一定の条件を満たせば、パート・アルバイトにも年次有給休暇を付与する義務が生じます。

繁忙期に人手不足に陥って業務に支障が出ないよう、シフトの調整、管理などには十分留意してください。

●交通事故発生時の対応確認

2021年の交通事故死者数は、全国で2636人（前年比マイナス203人）でした。調査開始以来、交通事故死者数は5年連続で最少を更新しています。さらに、2年連続で3000人を下回りました。

一方で、交通事故死者のうち65歳以

上の人の割合は、過去最高の57・7%となり、6割近くが高齢者となっています。

死者数自体は減ってきていますが、悪質・危険な運転による重大な事故は後を絶ちません。安全教育が重点的に行なわれる時期は入社時や事故発生時が多いですが、慣れによる油断、加齢に伴う身体能力や判断力の低下も想定されます。勤務年数や年齢に応じた教育プログラムなど、社内の交通安全教育に力を入れましょう。

また、社員が業務中や通勤途中に交通事故を起こしたり、巻き込まれたりの場合の対応（事故直後の対応）などについても、きちんと確認しておきましょう。

総務 ● 法務

●売掛金の管理・回収の徹底

年度後半に向けて、与信限度枠の見直し、信用状態のチェックなど、得意先の与信管理を徹底しましょう。

なお、帝国データバンクの調査によると、2021年度の倒産件数は5916件（前年度比19・1%減）と2000年度以降で最小、1965年度の

5593件に次ぐ、半世紀ぶりの6000件割れとなりました。業種別にみると、小売業（26・9%減）などのB to C業種では、倒産が沈静化したなか、運輸・通信業（4・2%増）は、全7業種中唯一増加となっています。

一方、倒産件数は減ったものの、1社あたりの負債額の平均は、1億1600万円と前年を上回りました。

負債額が増加している要因として、

コロナ対応融資を受けた企業の倒産が多いことが挙げられます。当面の資金繰りは凌いだものの、業績回復前に返済開始時期を迎えての「コロナ融資後倒産」が目立つようです。

歯止めのかからない円安と物価高のなか、今後、倒産件数が増加に転じる可能性は否定できません。

●得意先や親会社との取引条件の見直し・交渉

大手取引先や親会社から、納入価格の引下げや納期短縮、取引条件の不利な変更などを突然求められることがあります。そうした要請にどう対応するか検討しておく必要があります。

●夏季休暇前後の事務

夏季休暇を実施する企業では、その前後の事務や連絡をミスやモレのないように行ないましょう。

休暇前の業務としては、取引先など

への対外的な挨拶や連絡、休暇中の連絡先の整備などがあります。また、休暇後には、郵便物の関係部署への速やかな配付、社員の勤怠管理の徹底といった業務があります。

最近では各担当者の取引先の休暇日程に合わせたり、希望日を個人単位で申請するケースも増えています。休暇中に業務が滞ることがないように注意しましょう。

●建物・設備などの点検・修理

業種や業態にも異なりますが、8月が閑散期にあたる企業では、緊急性はないものの普段なかなか手をつけられずに気になっていたことに着手するのもよいでしょう。

たとえば、建物や設備などの点検・修理があります。不具合があれば、修理や交換の手配を行います。

●夏季休暇前の大掃除の実施

夏季休暇の前に、大掃除を行なう企業は多いようです。

「書類等の保存と破棄の基準を決めているか」「ゴミの分別方法は周知したか」「掃除道具は揃っているか」「廃棄物処理業者への手配は済んでいるか」など、やるべきことを1つずつ確認しながら進めましょう。

●台風等の災害対策

8月から9月にかけては台風シーズ

ンで風水害が多発する時期です。

近年、甚大な被害をもたらす自然災害が増えています。気象庁の情報などから先回りして対応できることもあります。いざというときに備えて、あらかじめ具体的な基準を定めておくほか、次のポイントを点検しておきましょう。

- ① オフィス・工場での商品・設備の水濡れ防止対策
- ② 緊急時の行動基準の明確化と周知徹底（機械の運転停止、火気の始末、避難場所の指定、ハザードマップによる危険な箇所の確認など）
- ③ 非常用医薬品・備品の追加、確認
- ④ 緊急時に持ち出す重要書類などの表示と区分保管の徹底
- ⑤ 緊急連絡網・体制の整備、防災タيمラインの作成

現地で安全が確保できる場合は、必ずしも避難所等へ行く必要はありません。同じ建物での垂直避難等について、事前に考えておきましょう。

74ページでは、被災時の対処法について解説しています。

●防犯体制の点検・整備

オフィス荒らしや放火などに遭うと、金銭的な被害だけでなく、最悪の場合、社員の生命が脅かされる危険があります。



民族の音楽 スパン民謡

グルジアから呼称変更されたジョージアの東方、スバネティ地方は、コーカサス山脈の山岳地帯。主に牛

の放牧や農業で暮らす。スパン民謡はチュニリと呼ばれる楽器の演奏とともに、ポリフォニー（多声合唱）で宗教的、歴史的事象を歌い継いできた。ゆったりとした曲調が牧草地に流れる。（切絵・文＝前田尋）

昨今はITを利用して遠隔操作できる監視カメラやセキュリティシステムもあります。防犯設備等の点検・整備を進めるとともに、日頃から防犯意識を高め、非常時の対応を想定しておきたいものです。

●中元・暑中見舞状の後処理

中元や暑中見舞状をいただいた場合は、礼状を速やかに返信します。

あわせて贈答記録を作成し、情報の追加・訂正などを行ないましょう。

最近では、経費削減や虚礼廃止の観点から、中元・歳暮を見直す企業も増えています。自社の贈答のあり方を再検討し、経費削減につなげましょう。

●衣替えの準備

10月から衣替えを予定している企業では、事務服などのサイズや必要となる枚数を確認し、準備に取りかかりましょう。

男女雇用機会均等法への配慮や経費削減のため、女性社員の制服を廃止する企業もあります。制服の必要性について検討しましょう。

来月の計画を立てるために

▽9月1日は防災の日（8月30日～9月5日は防災週間）です

▽秋の全国交通安全運動が展開されます（9月21日～30日）